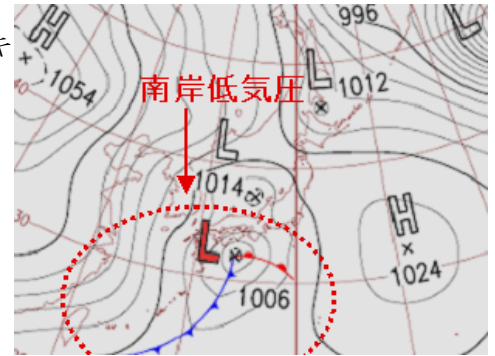


◎丹沢での雪山を楽しむ

丹沢は、首都圏から交通のアクセスも良く、気軽に行ける山である。更にハイキングから沢登り、冬は雪山も楽しめる身近な山として人気が高い。今回は冬の魅力を絞って、丹沢の魅力を紹介してみよう。

* 丹沢で雪の降る条件

まず、丹沢山塊で雪が降る環境から考えてみよう。日本海側の雪は西高東低の冬型の気圧配置の時である。この場合丹沢山塊ではアルプス等の山々に遮られ、雪は降らず風のみとなる。ところが冬型の気圧配置(寒気の流れ込みがある事)で右図のように太平洋側に低気圧(南岸低気圧)が進んでくると雪が積もる。この低気圧の進路により、各地の雪の量も異なってくる。降雪量も多い時で1m近くに達する時もあり甘く見てはいけぬ。通常30cm位の積雪量は頭に入れておいた方がよいであろう。そして時期的には2月に入った頃が積雪が最も多くなる頃である。



丹沢に行き降る気圧配置

A. 主要な山の状況

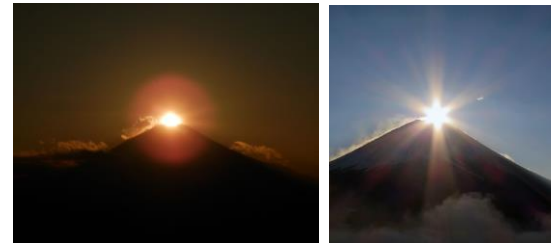
① 大倉尾根から塔ノ岳

丹沢で最も登山客が多いこのルートも2月に入るとすっかり雪景色に変わる。雪が降っても登山客が多いので、一番に登らなければラッセルをやる必要はない。ただ雪が踏み固められるので、軽アイゼンは必需である。ストックやピッケルはどちらかは携行して欲しい。晴れた日の登山客への贈り物はその絶景である。周囲の景色が夏とは一変するし、富士山を始め雪を戴いた周囲の状況は素晴らしい。塔ノ岳の尊仏山荘に泊まって、夜景や素晴らしい冬の星座を見るのもこの上ない楽しみである。少し足を伸ばして丹沢山や蛭ヶ岳、宮ヶ瀬方面に足を伸ばしてみても楽しい。



大倉尾根から見た表尾根の積雪

又、2月22日は塔ノ岳からダイヤモンド富士が見られる特異日である。当会でもこの日に合わせて山行が行われるので興味のある方は参加して欲しい。このダイヤモンド富士は日没であり、竜ヶ岳等の日の出の状況とは反対のなるので両方を見ても楽しい。いずれにしても、今後雪山に興味がある人は、慣れやトレーニングに最適であり、レベルに合わせて通って欲しい。そして、早めに雪に対する問題点を洗い出し、1つ1つ克服して欲しい。



塔ノ岳のダイヤモンド富士 竜ヶ岳のダイヤモンド富士

② 鍋割山

更に手頃なのが鍋割山である。渋沢から県民の森までタクシーで入ると2時間半ほどで頂上に立てる。ここも比較的多く歩かれておりラッセルは必要ない。ここから見る富士山も素晴らしい。鍋割山荘も営業しており、名物ご主人が対応してくれる。でもなんと言っても有名なのが「鍋焼きうどん」である。冷えた体を熱々のうどんが体の心から温めてくれる。しかし近年あまりにも有名になり過ぎて、シーズンの休日ともなると登山客が押し寄せ、2時間近くも待たされる場合があるらしいので、時間をずらす等の対応が必要と思われる。鍋割山の下りは、往復も良いが少し足を伸ばして大倉尾根経由で大倉に下るのも面白い。雪が少なければ、小丸尾根(訓練尾根)を下っても良いが、急なので注意を要する。



鍋割山荘の雪の状態

③ 西丹沢方面

西丹沢自然教室までバスで入れれば、少し長いが大越路から大室山～加入道山～白石峠と回るのも面白い。雪は表尾根に比べ、やや多くなる一方、登山者が少ないのでラッセルの必要もあるので時間に余裕をみた計画を立てて欲しい。大越路の避難小屋は綺麗なもので、宿泊プランも楽しいと思う。



← 鍋割山の鍋焼きうどん

④ 道志方面

道志方面からは交通の便が悪いが、自家用車を使って入れれば、菰釣山が面白い。富士山の眺めも素晴らしいし、静かな山旅が楽しめる。但し、入山者が少ないのでルートファインディングには充分注意が必要である。経験者との同行が望ましい。

B. 装備について

基本的には冬山装備が必要である。オーバー類はしっかりしたゴアの雨具が良いが手袋は防水の聞いた厚手の物を使って欲しい。アイゼンは6本爪以上が必要である。又防風対策も必要でネックウオーマーや耳の隠れる帽子は必需である。薄手の羽毛服やテルモス、予備食、パーティに1個のツェルトも必要である。無理のない計画で臨んで欲しい。



西丹沢白石峠付近